

## 総合防災訓練

周防大島町



レスキュー隊の訓練

主催場の一つとなった東和会場では、倒壊木造家屋や多重衝突事故車両からの出救助訓練が行われました。多重事故現場では、落ちてきた木材によって道がふさがれ、3台の車が衝突事故を起こして立ち往生したという想定。  
車内に閉じ込められた人を救出するため、レスキュー隊がチェーンソーを使い車を解体しま



バックホーを使って木材を撤去

一人一人が防災に対する意識を高め、災害に対して事前に準備をしておくことの大切さを再確認させてくれました。

地域や様々な関係機関と合同で訓練を行うことで、お互いで協力し合うことの重要性と、共に災害を乗り越えていくという心強さを感じる事ができた今回の総合防災訓練。

一人一人が防災に対する意識を高め、災害に対して事前に準備をしておくことの大切さを再確認させてくれました。

### ■県建設業協会大島支部、道路上の障害物緊急撤去に出動

訓練では「東南海、南海地震が発生。震度5〜6。沿岸部に3Mの津波が到達。電気、ガス水道などが使用できないほか、町内4つの有人離島（前島、浮島、情島、笠佐島）が孤立した」という状況が想定されました。

### ■日頃からパトロールがものをいう!!

実際に災害が発生した場合、建設会社は、災害発生時の人命救助

です。10人の隊員が見事な連携を取って作業を行いました。  
県建設業協会大島支部も、事故現場の木材や土砂を排除するため訓練に参加。バックフォアをたくみに操り、道をふさぐ木材を次々と撤去していきました。バックフォアを指揮した中上孝幸さんは、「災害現場で特に気をつけることは2次災害を発生させないことです。地盤が安定しない場所での作業も多いため、周りの状況にも細心の注意を払うようにしています」と語って下さいました。



中上孝幸さん

から、道路の復旧作業まで終始関わります。

特に周防大島は、海と山の双方からの危険に備えなければなりません。「日頃から地元のパトロールをして危険な場所をチェックするように気を配っています」と中上さん。

# 島全体を巻き込んだ大規模訓練 2005年総合防災訓練 in 周防大島

### ■小雨が降りしきる中、周防大島の各地域31会場で実施

万が一の大規模な地震、風水害の発生に備えようと、住民や地域団体と県、市町村の防災関係機関が一体となって毎年大規模な「総合防災訓練」（主催／山口県防災会議、周防大島町防災会議）が行われます。今年度は11月6日、周防大島町を会場として、主要4会場と自主防災訓練会場など31会場で訓練が実施されました。

訓練の目的は「住民地域団体の自主防災意識の高揚」と「防災関係機関相互の協力体制の確立」。

周防大島町は、周りを海に囲まれ、内陸は山が多いという地形から災害時の危険性が高いとして「東南海南海地震防災対策推進地域」に指定されています。今回の訓練では、地震対策の更なる強化を目指しました。